

佐賀県研究成果情報

クエン酸資材施用による高畝マルチ栽培樹の樹勢維持と減酸促進					
[要約] 発根期におけるクエン酸資材の土壌施用によって、根活性が高まり、葉色は高い値で維持され、減酸も促進される。					
果樹試験場・常緑果樹研究室				連絡先	0952-73-2275
部会名	果 樹	専 門	栽 培	対 象	温州みかん

[背景・ねらい]

マルチ等の乾燥ストレスの負荷によって高品質果生産を図る場合、樹勢の低下や減酸の不良といった問題が生じる。そこで、クエン酸資材施用による樹勢維持と減酸促進効果を図る。

[成果の内容・特徴]

1. クエン酸資材施用によって、施用後から根活性が高まり、夏季の高温乾燥期においても高い値を維持している(表1)。
2. クエン酸資材の施用により、生育初期の減酸が促進され、収穫期の果実酸度は対照区より低い(図1、2)。
3. 生育期間中の葉色は、クエン酸資材施用によって、無施用の場合より高い値で推移する(図3、4)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験の供試樹は、根域制限した高畝マルチ栽培の興津早生であり、同様の成果がハウス栽培の不知火においても得られている。
2. 資材の施用時期は、開花後の5月中旬を目安とし、発根期に遅れないようにする。また、不知火においては夏枝発生後の発根期の施用も効果的である。
3. 本試験では散水施用しているが、かん中施用や点滴かん水施設を利用することで、より効果は高まるものと考えられる。
4. 施用量は10a当たり4~5tを目安とし、樹体の大きさや植栽本数に応じて加減する。

[具体的データ]

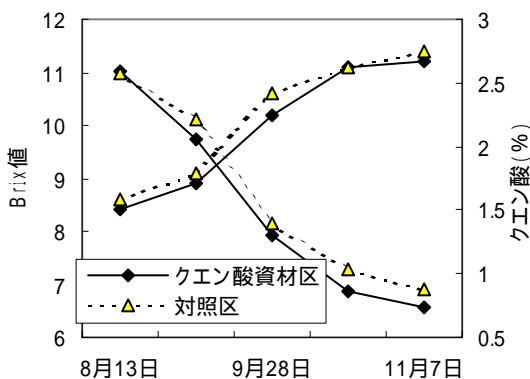
表1 クエン酸資材施用による根活性への影響(2002年)

	5月22日	比率	8月5日	比率
クエン酸資材区	0.52	216	1.01	153
対照区	0.24	100	0.66	100

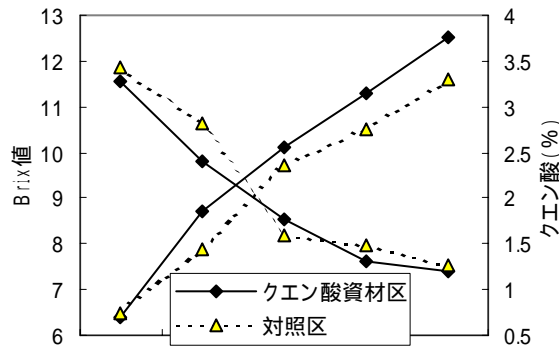
* 数値は乾重1g当たりの酸素消費量(ml/g/hr)

* クエン酸資材は商品名 コンリキ(有機酸25%含有)

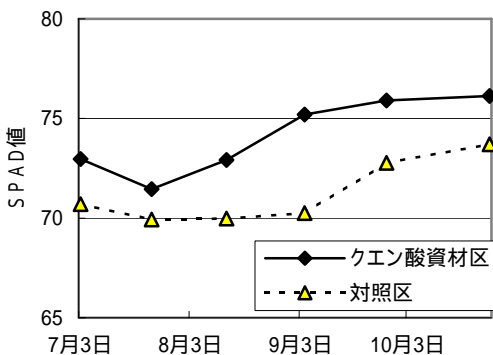
500倍液を5月15日より10日おきに3回施用



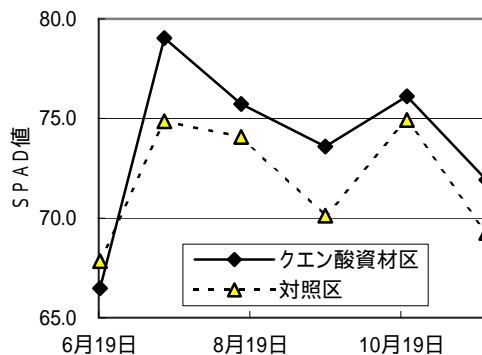
第2図 クエン酸資材施用による果実品質の推移(2001年)



第1図 クエン酸資材施用による果実品質の推移(2002年)



第3図 クエン酸資材施用による葉色の推移(2001年)



第4図 クエン酸資材施用による葉色の推移(2002年)

[その他]

研究課題名: 高畝マルチによる温州みかんの高品質安定生産技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 平成11年~15年

研究担当者: 貝原洋平、新堂高広

発表論文等: 平成14年度常緑果樹試験成績概要集